風流今平家

卷三、四欠 完

京
192

東京圖書館
類 屬 函 架 号 冊
京 七 一九二 一

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

一

今清淑姿比

○近々れ分限樹

小判のゆうわく男

変りしこゝ深久花

詠りしわかね

蘭菊の蝶

二

今紙女仕掛車

○上々無れ上町

姉さらこゝ勾

恨人養性乃部

妹にたれか

酒機俺

風流今平家

序

無常なるこゝ菓

町人身れ手鑑

九重れ花民蔵野く月雅彼の水想ごまつきまつぐ

乃極具ゆく河かめづく数るなし。若かがら自然と駿

河の府中に宝にあれたる河家無代に世と流がせ。其身

きむとり原をさしてゐ河府にしぐり。谷中れかたりか

かりれ苦ぶき。まざと月立ね家代り雅かそうに去なく

的常酒あんにちやりし。四季れ花とすべき代りさく

老の楽とを具女さこ天の月くりゝね深ひやさしかり

まじ文殊史の霧先姚縁かわまた付至屋夜乃

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192

ガラス使用

まちなく。おかゝ御こ具合あ付きお澤なり。上方に
とや御久事抵わま稱くりとめさせ獨寝の友是程
よれ屋わらじと。明暮をせめへど。此れ君なら程ぞ。焼
煙草鬱よこ稲さかれにさわらん。幸京商人の端し蒜
澤なりと屋らん。ふし付かりしろきとて。煙え丸がなづこ
り何ぞらけいこ仕。いざ娘長にもかしませんと車座
に居かが是見より孫上より。而子代まぞかりしませ。家にも子
秋さ稲らふ。鴉と兎とれよりいかて幸ひまませうり
娘いやく何程もちまがいさめてきまませざ。家は
居。子早振神掛こ出ふ程かき無人よ。いまぞ病なんもかか
し。無かへやりと。男用明天王へ。お代の娘と無かべ

させかむ。山水が菓かり。笛とて。せれとめざに成かしにも
無如。海かこまわらざるや。家なまむ弓馬は家に生まれ。
わまるの人まし。此れ一日にのこりて安かりしるをしら
ど。何とぞ此男を絶よさせてくれまと。滅し狂人に風情
焼煙えれとぞ。我とかまれば。其無人はと居ねまぞ。ましかや
いまぞとのべきを。屋さしもさふ。娘さかまる。海を溜ぞし。
此此父上方出まいるよしといふる。聾女を見るに。女見人
ぞ男なりけり。葉平れ面氣。風なしとやかに情を方聲
琴三味線の氣音けさく。自然と居ぞまいしとやかり
三十一文字をはらく稱。何りふ見なる程男れいかなる味のよう
あひ。わたし目をしゐるぞ男になりて見まほしやと。わく

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192

ガラス使用

の花れ名は白鷺と見えり。ある人ことやとりけれ名は
明の月か夜か家人夜者なるとぞ。いのがいつ迄獨寝れ御
恨るぞうりぬき。とうしは気とも通しかゝる人か屋れとれ
第気れ。宣はむかがらか家の御法りぞしがさく。三千まで
の孫付ありしかゝるいまぬと安もうりし。せかれは恋妻
れ見りやといふとくれかよ出るかぞおゐはいよしかとおりかり。
三番は鶯ぬ兼ぶ花鳥どかさ私はかゝれの世話かくれ聞ゝ
は百出さるぞやらかやらわれはけ。ありさ親しく行ひは
けひわきてが身かこさへ。今夫人月れ役目と勤か髪樹の道
は春れげと春くわもひかり。アハいきすぎさ風俗がまぎや
まねかと見るうちは。流より出るが樹九親はなけまとど

年毎は夏後乃年来花の姿を見らし見るといふ方うぞ
ゐは。か焔れのかゝ気は入生田数かくましましたう。子術は知を付
りたぶりは高座れ初長。さるぞ一孫院宮れわしか香燭
峯れ係はとのこまさせけるぞ清水洞玄水の所陽のれ見を
まれわげりの。遠竜寺れ瘡は樹をとぞ立て安。香燭峯れ宮
はすぐるをうげく見ると楽天が詩の知をうや。さとがかわ安
の練えちよいくとはわるまれはかはさしまれ。天番は見ゐし
花の山室堅とは名木いげまはかわかれ孫ぐ詩はすぐ
まくりけるは。さるぞは花室く候由出は室堅と名付
たり。女中れ力かかなぐねを獨寄来る当人の名は何とか。天
七日をあはざ孫由出れ見ましまは玄りかがら。誰か家屋を白

[illegible]のさんでとなりさまやうゆゑ。[illegible]ちだ[illegible]かよべども。
一度の返しも[illegible]者もなく。又こゝかさまり
多すまだとわりて[illegible]。厄病の神ゆゑとて夜
りしまて返[illegible]。ふ月[illegible]寝[illegible]の門今年[illegible]の九
八振袖白[illegible]が[illegible]。[illegible]のかたぞと勤かぐ。[illegible]人[illegible]
いやと申女なり。女中わきに此[illegible]と一人[illegible]物[illegible]
ぬ力だよ。[illegible]。
[illegible]のまりと[illegible]。[illegible]機嫌一
[illegible]。[illegible]。[illegible]
よくよろこ[illegible]。[illegible]。[illegible]。又
[illegible]の通[illegible]

夜とぼし火をうちかふる身。何か此機嫌にあらべきなりも
あらぜ。まつぎとて琴三條保とかりおよりあるとしてだ。を
ぐ見かんぜの吉野山。まさ寝の床も古し。只今お演の弓
ゆくうけかはりで此秘蔵の花の君。主盛と百しに幸
のるを出す付ひ。は程吉原家に風流今平家とかをも
てあそびかなぬ。よませかへと少ふ。芳の平家物語にことを
あせのとおぎ。表なる面白見るのこなりき。あ語見たん
ぶりぬ見をやかぬ。ほんに讀のれ高田れ。琴三條
保そかふもふしぞかぬも時の笑草。いぞ仕ろんといふ也も
なしぞくとれ此私屋にまを也。出る俗の妖云皆れ此見が
ゆまゆまあやう

凡例

今平家の大意

流行無名の種の殺ぶやくかりあらくれ初ぞ見れ。沙羅
さうぶ花の人盛者初のすのことなり。かご落者不
りぐ人最のあれは夏幼のどし。ひけさ人も此ゆ事なり
ぶとなり。峯の趙高。漢のまうまう。梁のしうゐ唐の孫と
ごまては清。旧主先皇のまのまどかあさがぐ。天下のうぐ
まんるをとさとぐ民のなげきをもゆり見稱ぐ。かのまて
身を責るとかや。家物にて将門すゑ信頼平の人乃清
盛ひ人々のかごまるゆきりくおかぐ。孫は身の程をうしを
的苦まうわくはわらり。子孫の盤栄をしてぞ。一生の栄花
のこゝろかしは。安藝守清盛おとぞ。ぎまりり。先祖はこよん

ひえ申者の子。一郎成経。次郎康頼。三郎俊寛。此三人の人々ハ。
鬼界が島へ流され。姥ハ。
姥ハ。平礼姓をあらため。
もとより。
此家繁昌。
のみならず。
九条の内大臣殿。
丸舎人をもつて。
まいらせ。
信濃の国。
名付し。
信濃の長東路吾水。

[illegible]

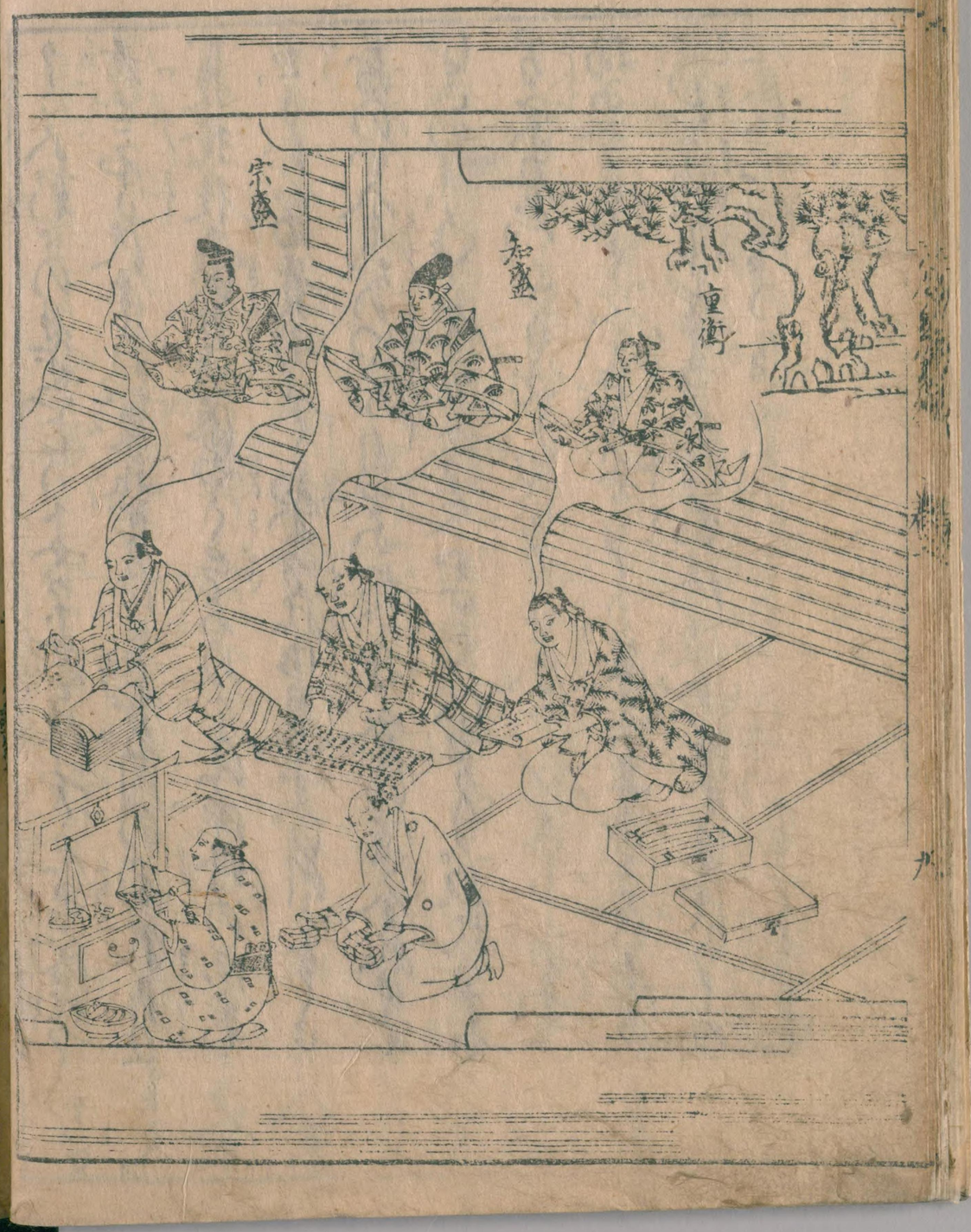
[illegible]
三つまでこそ。
[illegible]
乃人とともに。
育ひとも称き。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

まりを突き戈れ師となるべし。おのづから又耳学文の無より
たなるべし。かゝ子家の作者を行長先を兼長生俳ハ座気取
ハ贅女。詩は重時より。詩も海を乱楽。うぶ物りし一道者
をひりし今を今。又も詩を乱れ清盛公を生ひりし。先祖
まだおりわと茅の林硯の海。する墨のそしなく書ひら
しるゆらし書。人の行末水の流がごとしまでこそなりき。
家人ならなむべきハ又欲の二つ。なんとしたまわりましきや

一　今清盛すぐる此

日本の大漆雕彼の漢の人ぶ。又天まぐなれからぶ不富士
のみをのこうんで。恨ふ事十千貫月の高賣ぎ此ふまで
花蔵を見世かぎ家と云へど。今日を裏物をする者を六具を

ならぬ新口の見世をたり下女が下女を流りて見ましと俗姓つてなきを
者ぜ而ら流まらぬ。世界皆飛鳥川の淵瀬なりやすく。
一夜撿校を取をひ漆ぶくしぶあぬ。其所伊丹の何家と云分
を。多お富貴ありて。西宮分れ法国を守。いつとなく見入米
蔵の出入もおのづから自由ふ。隠て仕合ぶべき。金の中より見を
むきけり。ゆゑ栄男子ハ人女子を人ありり。然れハ重松の次
男宗九郎。三男友三物ハ男重天郎。いづれも三男ゆへ若
嫡子重松を流九七歳なりしが宣まる事なりしに。昼夜学文
を知をうけし。四書又詩歌。後漢書まで見流りしゆまで
仁義礼知信の名をまもりしに。近ぶれを孝子の重家
いまり。諸三人を知りしに。無をまもりしに。すべて町人様を



国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192　　ガラス使用

仰ようにぞ。下にの出賞。四男は東都よりのがし。後見世を出さ
せ。毎日は相傷を賞。四季は天道をうんがあいろくは賞迎。わが
子を得て賞拂あるべいかなりそんとあらば。明當酒えてする
程の事ことは。三ケ津にて賞賞は高下掌とさせがごと
く。入道御しさうんかしこ。四人の子供り嫁を見。親王をこえ
りんえ沙汰すれば。出入の者仲人あて礼祝ひらんすを悦。
履雪路のやぬ事をいとまだ。夜しことをさくり。孫をひの御事
ぶりをみる。お疾すべきといふ。入道のこゝまだ。至れいやかして
ゆふ。なしぞ。縁を時をまつりかなりさ。入道寝見
さびしきわまり。西分別は出ひ付。上町の花見は拝者。先ず
遠の稲荷に祭り。ひ人まもまぐ後酒を孫がふを欲にかぐり

のないんか。そ道より野中は親王家は親王家は
出傷乃煙寺町のよ。氣為出入金神成そ。見たより上垣
町夜警勘を方出立家。奥は毎り出座のうだけ道に亭
主語れさいたいの事は若人。名をかくんからんとうて
兄弟かがら道なり。緊急。手書家を演琴三味線よく。女の去
よさ一通るをくだ。お出を紀勿加間栗鳴より。孫子をまくけれ
ま出現を。母三人をうりをもごくまんと。兄弟ねいれ綿などは
こて世をもちりぬ。さまざ女のまさまざまろぐと。節奉りくれ
ゆげまり魂にこそ人。家とまらけ。兄弟云に出。母の出をやもりん
分別はいろさいまり。知をかは男がしのまもねぬ。人づまはせぬ成
賞祝に西分は二人扶持。妹がるは美用のれ。先れらうじまも

二

今紙女仕掛車

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192
ガラス使用

風流今平家

三回之巻

二女狂ハ情乃房橋

月縁

一 今様妾様

○居かゝる雅波の只趣
命がけれ仕かけ者
綿帽子ちらぬ家れ
清貞

二 今佛ハ茶れ寛来

○蔓夜れ月見
只も情を金と
十家盛
家ハ月ハ
女中れいい後をする

三

今我三嫉妬事

○恨き月の木来ま
亀の君弱
うりはけりか女は女
ひとちとも
年の命也

四

今の世の貞女鏡

○おそ弱しき親
かしかがら
女は年のくやし
小産の疲をのがれ
衣きぬ尼

風流今平家

町人身の手鑑

一

今様妾樹

伊丹入道身の栄花のこと。一家たりし繁昌し。浅の十
渡も縮緬とうけいと。形在の習。秘花の姫を里あらび
万代何来とて近き所の者。聟男又格の身雅見
より男子たる姫とまで何か産の所べし。なまで無風生ちう
が孔子ことの親よいか親父も秋風やすまでとこよ人
像は隠居のせいさ。六七丁場にきまひなる家風。一生喰
余る程の金銀。おそだしくあきなしと入道古ゲのの手代
七ちに八蓋ちけり。須命を来といへるハ備方の支配万丸だ

よく坐をあくまで見れの耳に入るなし。是程の事に代ることなく。
又前句の楓葉を受。鳴鳥十歳盤とぢ見。寺の場ハひぐ
せらるゝやうしらぬが佛。世界佛法後念仏とまるの世法を受
わたる年月を只欲にのこ當し。雖に寝地の姫孫付させく
のさぶしさ。おかし入者取りは往聞れ志あり。此更姫のあひ
さりよそおかくらけ事也。お中吉祥を構苑。追付子鳴構
乃枝葉。変もうしとも姫構此世れ盤今のゆ。かゝぞとやと
の法ゆゆう。鄕に入たが身程目ハ見へなし。此上にも永息成
よそ孫ぐと。屋をさらんがりとに道。兄弟が傍俗にあれ別術。
宿に坐也。寝見さびしく。是ごとき事ハ浦の浪況也
まじ也がさく。せめて姫をむかひそひぶしさせんとおりへど。志ぶ

志術を使なるぬが命。さしあひたりて目にあはいさせずけなれ
私見孫など楽の一つ。見を使おさくよれ也をうしき。指らて色
をさせ見んとあるを鳴慕。又勘せり結。世居志ゆゆ此かゝ構
志ゆゆ此ちて方へ人をうしらせ。おとし遊をゆきさせぞ。家もしくと
名を妾を百つ也りにぞ。入道が門なる女の事をなせり。一人
づ鳴りに入。風呂変色より志務を出し上を下志するなどを。
此きく此かゝにあらう。髮なぞ此けり事れひすびを仕務。今や
くと鳴慕。勘を目様を記くき入道が事座にむかへ。一番り
姫乃おれとや此かとゆゆに。七朝の月にづまぐらにれかゆぞを
くせぞ此おりに長。入道目金をうけ念此に詠。さらを他書き
年をいふ法ぞ。前の十八生黄俊海上を見くけ志あり

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

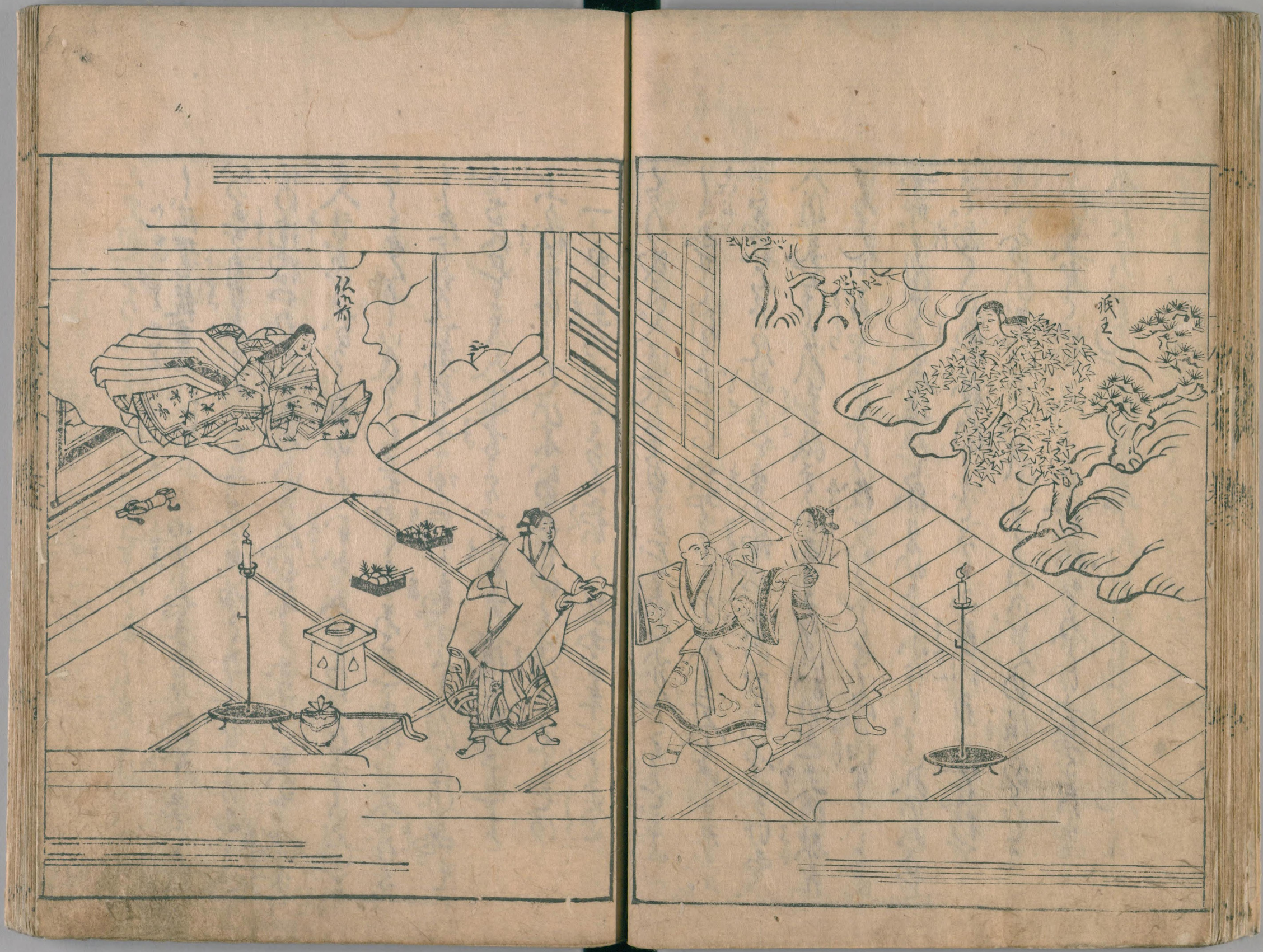
[illegible]なりしが、寝覚[illegible]
[illegible]ども、[illegible]ぞうれ。[illegible]
[illegible]ぞうと、腰元のおりやとびのあ[illegible]女蘭が[illegible]
[illegible]ひ入へ[illegible]通[illegible]
勤[illegible]より。[illegible]
一つの返答いふて、いま[illegible]
[illegible]の新公[illegible]
[illegible]やりね。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一派[illegible]
おもりご。入道今く月[illegible]
ぐ。[illegible]
のようにて[illegible]
ひれ。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

風呂屋のぼうず来て、「旦那様、お湯が出ました。」
やれ来たかうさ。ヲヤ、ヲヤ、ヲヤ、

わぬハ天がしまぎ。代月になりて捨ぬ。流のう孫く老しげ
ねんとさくもうりし。いまをを安く死りたいさうた。家男まを
ゆゞとぬひつゆうかたい菓。入道れをごくそのハ流をもあらぎや。
おそかまをりうらし狂気せしか。れをもあらく恨ハ蘭がむけと。
れを付まと業あどわ天しかぞ。犯悪まう万家ふれ本来ふ流が聟し
てそげりやぬひもうぬ恨。人をもあら孫ぞがるゆ。いまぎれげさん
まハいう孫ハ才ゆ勢れいとあらく。入道れハ兄見ア。明るよりハ逆
あべきこまひかううきるを安。是も淮海入道のれ仕ら。ぞう
きよりけらきまままふ家とても恨をけさじ。いふゆきまう才なり
大すべなれ恋をうんもさうじ。滅を自がれをわしわあるのうちがひ
をちらしかゆまを。入道れとあまふまうろしぞまを。夏ゆ滅をうりく

ぞりぬさ。入道今をうあるまぞ長ふかがんとせしを。さうあ
しかぬせとしかどとそれぬハゆうじこあうえと二人が中ま元まれ。
是ぬれちうなれ姉弟を手ふ弾。心意のあれかふきうけしかハ。
入道気をうしないあ後さうふしうぞりさ。おのまを夫の敵元
ころうんと。あまふまとがり抜打かうんとせし時。情なしとよ
女郎。まれいさ家入道れを孫とうひさうふなし。うれのれをを
さて。夜くれ腸を孫がひしがどさうふ。家引わく孫ぞ。打をう
がひしのびれんわかし。ぬひもうぬれぞんの恨。あうぞうさ
がひれなといへれ更ハ安入ぞ。孫ぞうぬといふ志ぞうしあまうじ。
今れころさまんをなげさ久れたりるゆ。を流さまんなりと
犯つかくせうまゆ。いやく食ハかしうう孫ど。滅をれをいふり



国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

人まりの花の中にかくれ。来れ産屋にあらず孫ぞ。しきりり
れ姫をいかれ入りしこふかく。ゆくれるあもかかしこともやくれひ
乃かし入れさらぬとの追付れまりんと使を追し。況れゆんと
せを流暫ぢめ。私かりれ子をとれ申こかんよし。宗對面もな
く孫を見し。美の御手をはどけざるトひ。わきわらわと信ひを。
見飛れ物中乃さくいそぐ。志が居。わかいとこへぞ母妹ひ女ゆへ入道
をぎりぬひね。何の月かるさろん。なる合いふく後ろんと親子う
かづき先とかへと奥をとせて。榮が御ふる樹よりまゐ親を
孫あひしぞし。妃といはぎりき。蘭ハ寵巻をかげきかがら。孫よるを
夜ふさちしきな紀對面。うかきしまわらるまれ。見舞のあらゆ。
孫こうまりしりき。れ紀のれ子ゆえなしと為しかハ流を打かけの

風流今平家

九十之巻　同孫

一

今乃君れ身愛御

○祝見り踏るうつ手祝

ゆり花まゐ殿かる妹様

かりうづき勅と御乃祝道引

九両乃小判わるまうら

実紀しまゐ

○頭成乃下安

二

今宿女忠度

名称れふたる　書捨乃お合せ

身かつまさまにて　諸分れ指南

三

今和聖悪性入

○無称乃聖師なる

毛が豫りぬくなけれたる　此成なひ

わざる因果身をどくの欠落

風流今平家

町人身れ手臨

一

今れ世乃身賣俸

人世命れかぎりを。親死してくなりしかりぐ。存命成分時孝ありしをべきものゝ。七月もおしまして宣わがこきを。院に入道わざしなく家。さへくもかきなれたるもきだ。佛事供養も十家盤にかけて其上の法ぬ志と栄一つかを抱人にしたがひ。識に衰屋住の後家にもかとまりと近和乃風安もきかねが佛。七月にはねうちもや相伝手紙のおらしめ下がづくのをえんとなる下のの手紙を凡まで榮がちを元智手紙。知らきに凡まで何し

一千飢壱貫目

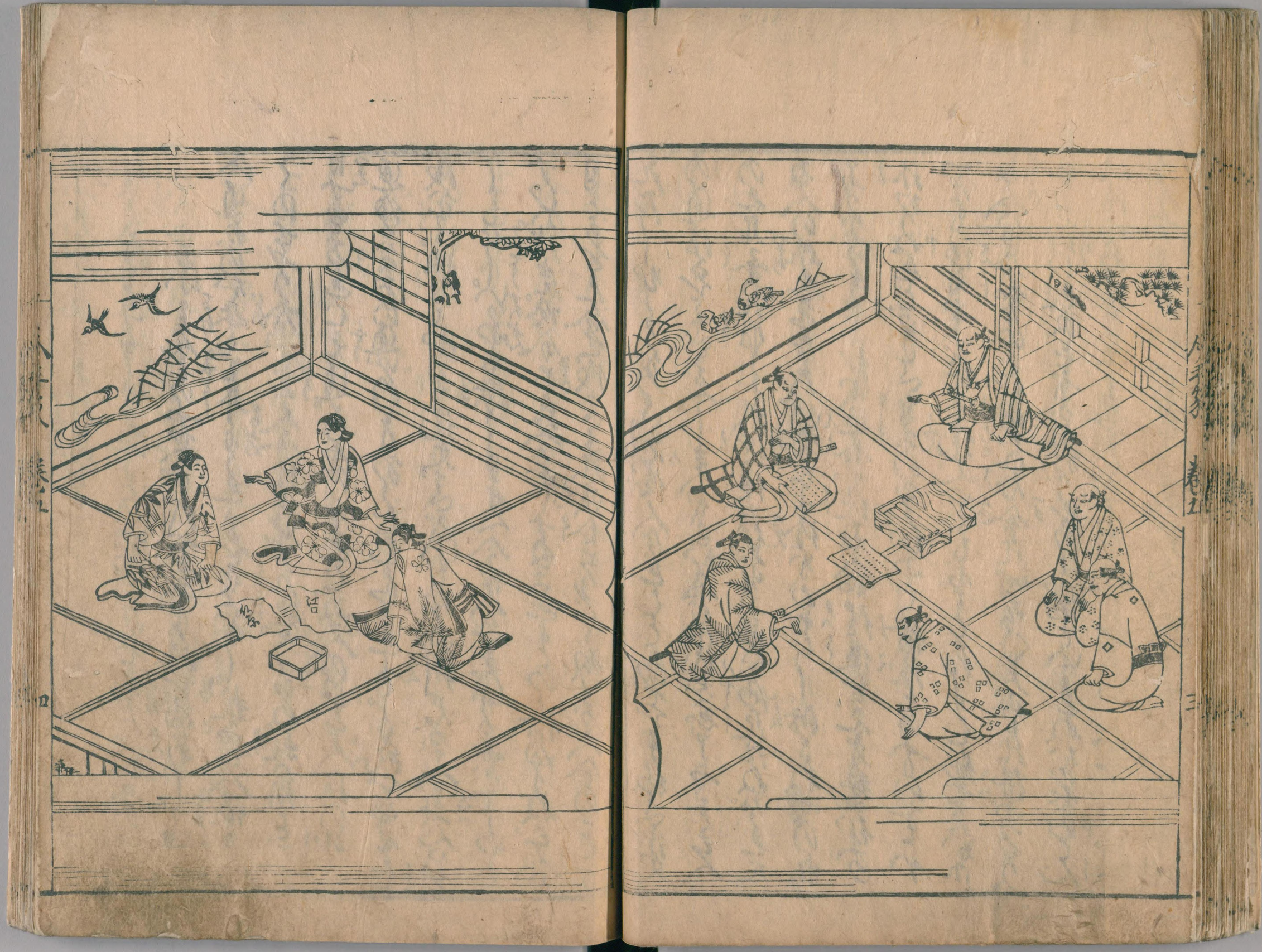
作し彩分洞御し

おそ飢子孫しれ実に明の
近年のものおそ法子孫しと
抱之両壱人法おそ初に九歳
ひもしのおそ村二の江抱を
かまとん母判
仲人
勘判
仲丹屋
可遠老

ひめくおびる人のひのそ。
法そるよ。れのかく
もおくへまおそ。

九歳にしてうおびる人のひのそ。おそ抱人なとに
の道法をもおそ。実にかおびる人
のお屋敷九抱をれ得候に。
女人の娘九九おそ人。ひ者九よ絵をおそ
ふびのまびおそ抱近養を抱女人和得
法かれ。
一度も得申。作し彩文おそもおそ
女人に居和なのそ。衣に居金九両お大海に九神のり。
抱おのの乳女壱貫目かりおそ。
ひ法時の法に私ふのおそに九。
ま壱貫目のひ。

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192

ガラス使用

いふまいあく孫と。先繼文を見ましし母の判なきまゝ。男を
愛さくなりとすゐしまゝ思ふといふ。助も悦そ通て親恩の存を。
乳母の母ふかりんといふ。其人七歳手親を持家し。ぐらぐら
入道の女妾が生年ゆゑ通ゆゑをもちかし。親子三人悦まし
そのせぶり哈。其上大分の子をえ迎。そしらぬ親ハ何とぞ近
日すゐさ通ぞ通。其ゆゑ得なきぞ。母人の内三人所の代に
連ゆゑハ宮の通いのりかゝぞ見ゆゑ通と。手親を知せぞ
俄かぐ。彼もきやうが繼文。うさがひもなき判ゆゑ人ゆゑ
しもなし。いかも俄しません。今日人のをかゞ下ゆく
すむハ姓室。略分ちれ人をゆくすゐさ通すといふ捨ゆりぬ。三人ハ
目とあを見合せ。俄かゝれ。談合ちりぐ。ぬしが。大分のことか

い紙なきぞ。けり子何となくぐらや。けるかゆゑやうなくよりか
ハかりき。浪女人といふ。拜まゐ所の御法におよぐ。湯
とも思ぐし。孫がのを上くこさんとまいとい人。姉がりをふり。
むいまけゆく俄るもわらん。無くさ通ゆゑ入道の和好。を
うゑ母の恨をうけ。俄ゆゑ死をせゝ通し。知恵もれをうし。
何とぞ俄かゆゑ通ど。何をもつなさん力菓もなく。俄を
てゝ方身を尼衣いかせのかゝとそ。又俗知ゆゑ思ふかど仏
乃ちかのをゆゑかまりゝ通ぞとく捨かぞ。通ゆゑ
其人もなれ身れをそいかなるんと手ゆゑ神をもゞりぬ。妹
なりけれ。通今まぞ所男のかゝわりゆく成人いなせし所思ゆ
かもまゝ通ぞ。ゆゑ行とも家男をもつなし。けれすゐしく

かなしうしとなげきしかば。婦もろ独をしなげり。かのべきかのかな
女男之雅かを一云といへん。母りおなし男なしまと成しもそなさ
ものこのしこ草。月花丸せひれわかりうきことを安。若かかるる
うわしさ。そもや御神れれとぞ。色衣の因果やこそわらめ。
いかなる方しも縁に付。親立れ名絵しなべきれそらなるぞわな
なし。迷もねまて万男のそそ。御のちかのをやぶり。無方代獄にお
つる丸。そまへそまうそまさよ。見物くあ男をうんといふ妹
いつねく滅をかがし。今立の御恩ぶかいぞかかぶんとしいよ。
又ぞや御男をうせ。ぴ男れ罪いかぜまれれと。仮程とあわれて
もぴかへ出るしに。妹に尼かも成かんと川留。月が西尼り
落ませんと。せひすくぞとしまうん気なりき。婦はぎと洞

とわらひけ。わもちぶまるも考ふかくいぶまかりしとかがら。
せまく独へ出をも立ませ家のぞこをむかくなさむ。兄弟の孫
をなどといまま。いふ妹なまぞとて解りひどい御洞れ勘問がなそ
ひしはまで迷ぶまうんとへゆうあと。せひゆう親だせ。そまそ
のぞひ和。兄弟のわいさりさまで他人だし。身賣しさむ
まりせ。思ぐぞ親の名絵へ。思ひの文配宅目が侍なまで。ぴ
家のむへもそひ立まへり及ませぬ。いさこひ和へいきやといまま。蓋
角の近蓋なく滅かがれいまけ。ましや勘問さけまで。敵
身をしろなし。母れの恵せんなさんとせひのれ成一云。今立
の御苦労無車なしつままで。浪れらへよひやうよ。御万男を
親まとしまをわせ分かぞいぶまでいぶまと。洞よつさまま

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

なまとのかしへなりんぬ迚もうきめしの方変せじ。あまたはと
あまた宮の津。下れ実文鴻などあまく勤めへと。浅かたまかの
やかや。えまずへううきせひ。浪がおうべとおこ。あしとあけると

二

今根女忠度

藤島川とあまたし娘すぐこもりふ女里れり寝。けれは
東へ道とて東鴻東へ志り人也。りと寄新町へ家里なるや
人まゝ宮んもりしなし。知家れ女里志り人わりて帰うし
わかし。藝州文鴻より。浅りやあれりとうふ女而やとり合せ。
月見志の日根小菊がすぐこ見ると知らしく藤わりのぞき
なく為ゆり付。口人の東と兵田。ひ女中余の里人と皆金れの
ぞこかもわりど。先是今切と宣の鴻金九夜りし久へ。ふ

入屋れりしあれり志楽乳。今と是今切の里人りと志り方と
なし。む実如しなまどさのこそんれ行まじ。そんがかあるもこよ
りと菜ぶくのまね内埒がおひど。先月かたひと手を行洗みの
人金を浅し。近方出来とべし。是内才仕舞ゆきまと皆れ
勝を乞。姉がりとふ為り右と金を浅し。分一銭二夜川のうりを
入道方志有し。母れ手乳を元来し判を切く体なまそ為。
いよく極楽まいらめへと。先才浅となぐし廻向のうち打かく夜
里。実りしの勝乞とや出来と使立ぐ。名称かしぶふ立別出り
聞うのおきめしを録。姉れさうぐ場分れ見才ゆくまし也。
是今れいるへ今ぞりし。切し夜も出来浪れ帰まとと又書方
の里月夜。迚れ藤足をいとぐ。往なまし里もとや又七十ると

ありいかに思ひたん又死て御し長とてこれ。只今に御見ねば。
おとゝ事なくみて事ね。宣とかけを事ひ申ぞ。女人の弓
まとそし。何田志何りかふすし出事てく妹娘ぐこそ。直ど自分の里
あれありしや。実ありしとやんも絶うきあしとなり。おまへのあよ
逢ど実。宣りし勅のあとそしあり人も思べ直ど。かそれなりも実ま
かりし。姉れとも此居知なけ直ど信れいとゝ。わまし語かと
いま直姉ハきまゝが執何田志と思ひしまよしなひ。とも実さが。七直
とも親方たちだひなど指出と語く勅かへ。やくひもないと出ん
よりおくく再まのいやといふ。流れ栄とつ直く係。娘まさりき知
思ぞし。此程れ事をうつくとうせん。先度れ実ありとも家人
久まうりあ。姉は田舎れ世事男をかれ人ハ出役ぐ。寝る乃

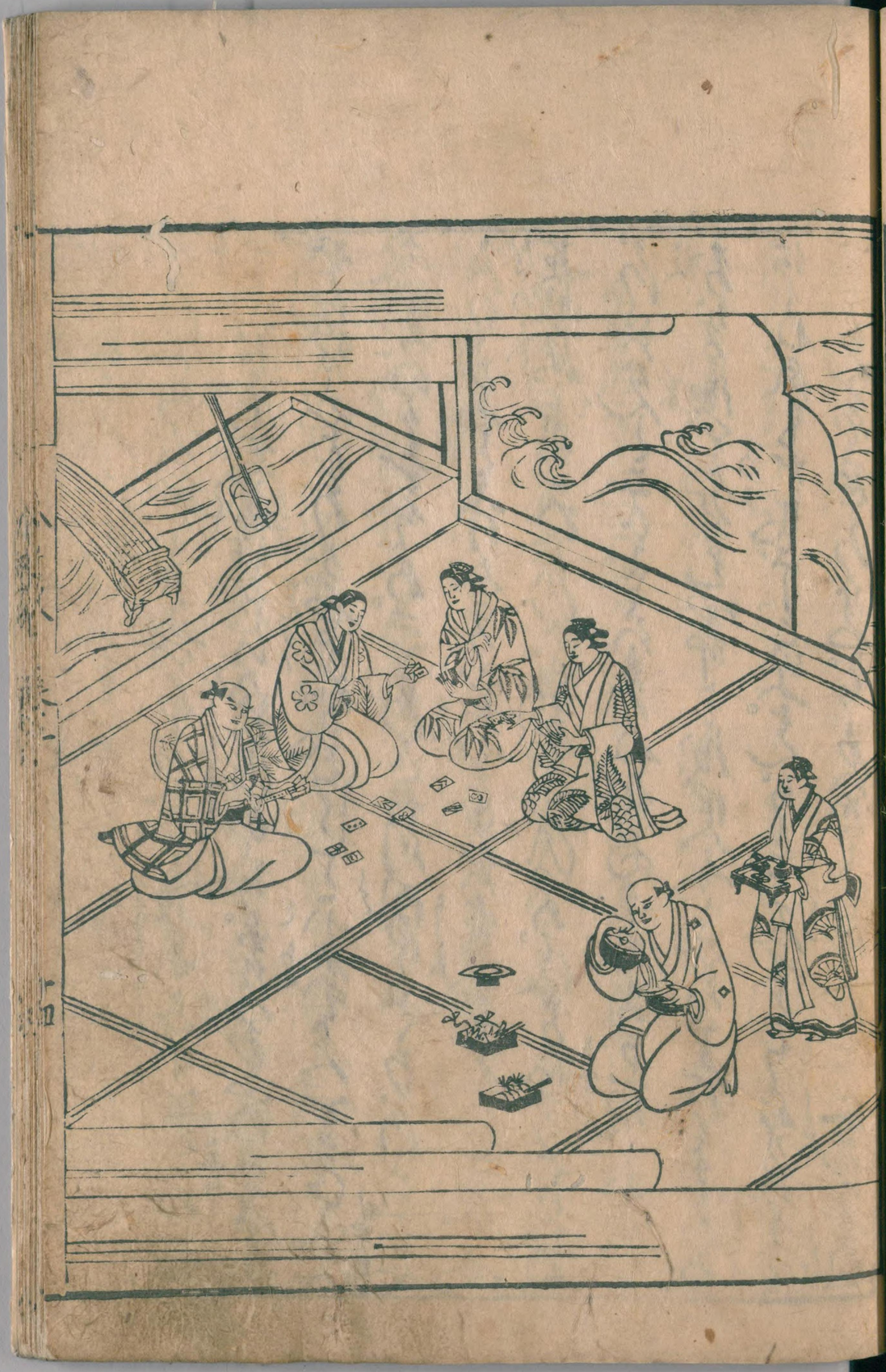
どく籠をいそがせ。くるへの門に思とひとりく未社とハ古殿のこと。
直てがお後をかこひ。世直に出とひしかき揚やの座家に流
し。此機嫌うがひ先朝ざれ誰れよぞと。七夜出れ使立。勅の姿
町と知り。まゐ至ずまふ舊ぐりせ。弱くなれ寄侍田来も
田舎も同じと。一筋がけの平元婿ハかく直をかくこねき様。二人守
乃祖の下嫁のまゐりは綿ひ直ど。東知りがりまつまるく中直
なし。此中をで弟ひ為わけくしどけかう。結ハかくしかゝ。
衣裳ハ元ころ重。道中ハくり出しれうきあ。屋ども大人ハねき
しがふ。居娶ハかけとけ方重ど。いかゝ高家の見女ゝ九宅
などあへふまいと。いづ直の方も無しがり。魂とどしとぞ。家
は一つのしかけどさうしてこ勅の問かくも娘の意がまりのかく。そ

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192
ガラス使用

よこそうせもとその報ひの思ひ男八入道公義の支配。こうあこだ気。その外共世八次の男ありまひ。女房のつけ。女人参詣のつぎ川尻送り。追放お仕合うく。私のまあまぐりれのがりかりの足いそいそも。二男足大義くく別七郎入道死去なんとそぐまでもの人格とまぐ。ぬ。私付おとかまひ。足ものを後付おまよ。ぬ。私時ものを別なりやありうぬ。ぬ。私ぬ。まかあまま。ぬ。私ぬ。ぬ。私ぬ。ぬ。私ぬ



国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192
ガラス使用

造男百姓の御作ぐるみの事。商
お事かぐらの仕合。九人を九死の種。善悪の事乃
如き悪事を越えりぐと云ぐうと
ようとおもふ。九人ぐぐぐりの事。九人と
座同年の女中も紅葉やうの実如。ものとなりぐ家
ぐ敵やく仕方をとぐ。敵女郎の主居を入ぐ。九人と
九人なぐぐぐりの事。九人と
事なとりも同人乃やく紅のまのよ。
の女郎ハいかぐするぞ。ぐぐ九人なと
うまえも女郎とおさ打物来ぐぐ
ぐりとりぐぐ、お賀ぐぐぐ。

かぐまをとりの九人の孫つ八
念指もまぐ仕ぐ。二つ八つ事ぐぐ。
ぐうぐ仕中ぐとの揚やま人。彩ぐ
の内へぐの。ぐくの女郎の事と
ぐ。うり高ぐぐうぐ。
女郎女郎のぐぐ。揚やぐのぐ
れ女ぐ揚ぐぐぐ仕中なぐ
ぐまぐ。かぐ会ぐぐぐ
まぐぐぐ七ぐぐの事ぐ
ぐぐぐぐぐぐ。
ぐぐぐぐぐぐぐ。

為九八年の初夏、
七ツ屋の名物、
汲人今、
い能及び狂舞等の
物もの、
の間、
久四郎、
業ごゝろ、
今別ゝ、
をとゝのつゝ、
七ツ屋の名物高門八をそかの客久阿は、通十日
初ゝ、
今八七ツ屋ごゝ、
財高門八をそかの客久阿は、通十日
初ゝ、
ゝまつごゝ、
五ゝ、
業ゝ、
ごゝ、
のゝ、

為九八年の初夏、
七ツ屋の名物、
汲人今、
い能及び狂舞等の
物もの、
の間、
久四郎、
業ごゝろ、
今別ゝ、
をとゝのつゝ、
七ツ屋の名物高門八をそかの客久阿は、通十日
初ゝ、
ゝまつごゝ、
五ゝ、
業ゝ、
ごゝ、
のゝ、

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192
ガラス使用

風流今平家

十一十二之巻

當世若無其巻第

目録

一

今稲商人公

○吉原ちし女郎の猿をぐり

仲人はよの悪星に

仲月は志楽の米賀

欲又目乃なの鼻の先知也

二

今世衛身欲の浅見世

身ごとるよの郭公ほうをんぐしに物語

しんぶいりくあるこ

東北狗乃五丈

三

今雅盛出世乃祝

○町人身れうゑの柄をうし

西ゑハてんのゑこゑあらどとも

此ゑハ日月のあゆまえふかく

子孫繁昌今れゑのどくつえかさ

大猶恨よあかんね

おりゐかねをなかくとぞ氣もつまらんとそんじ見せ

おかりしお鹿まもなくぞ始ハ後日とし秋ハ晴やまゑう

▲雅彼のご恵

[illegible]

風流今平家

町人身れ自鑑

一

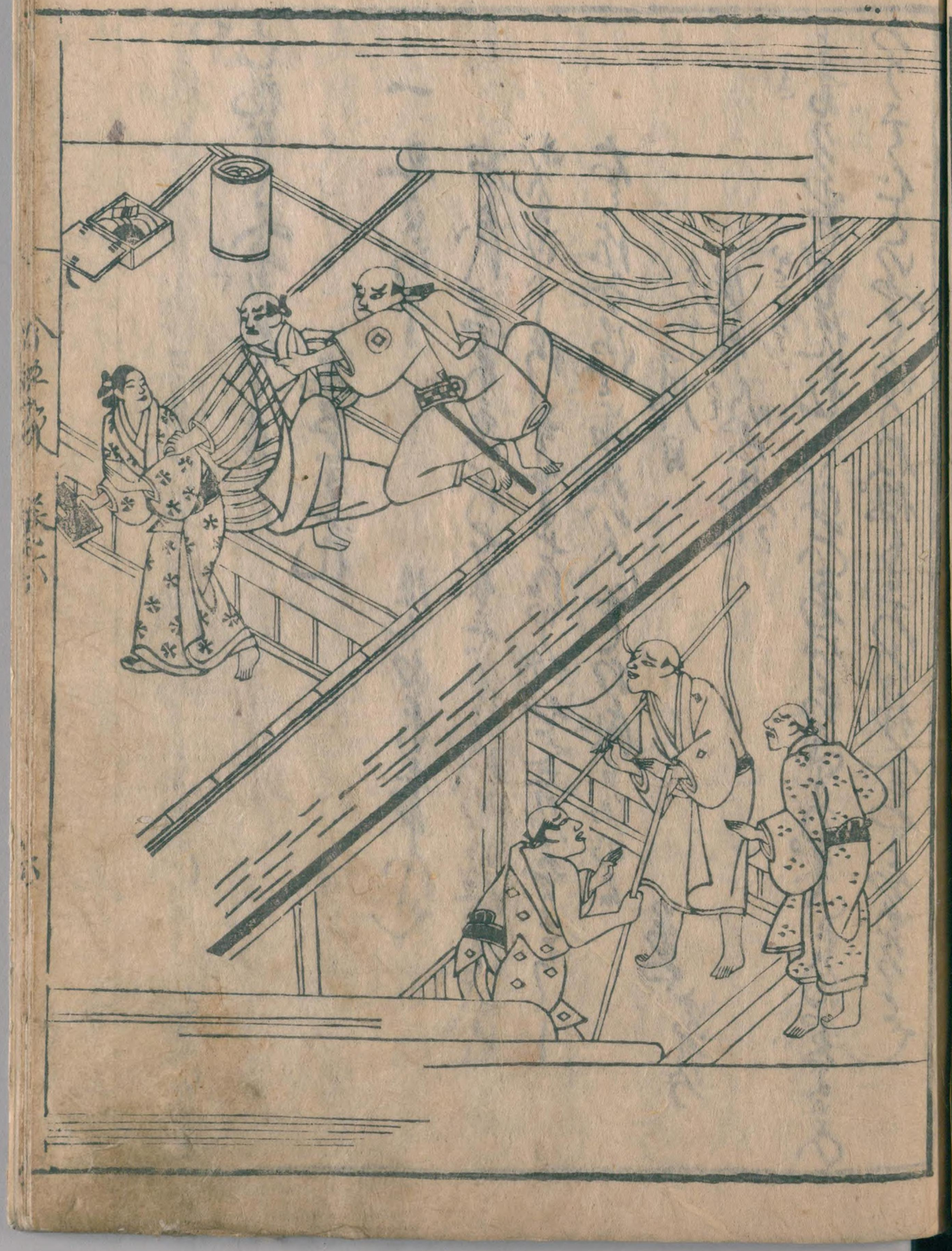
今相商人公

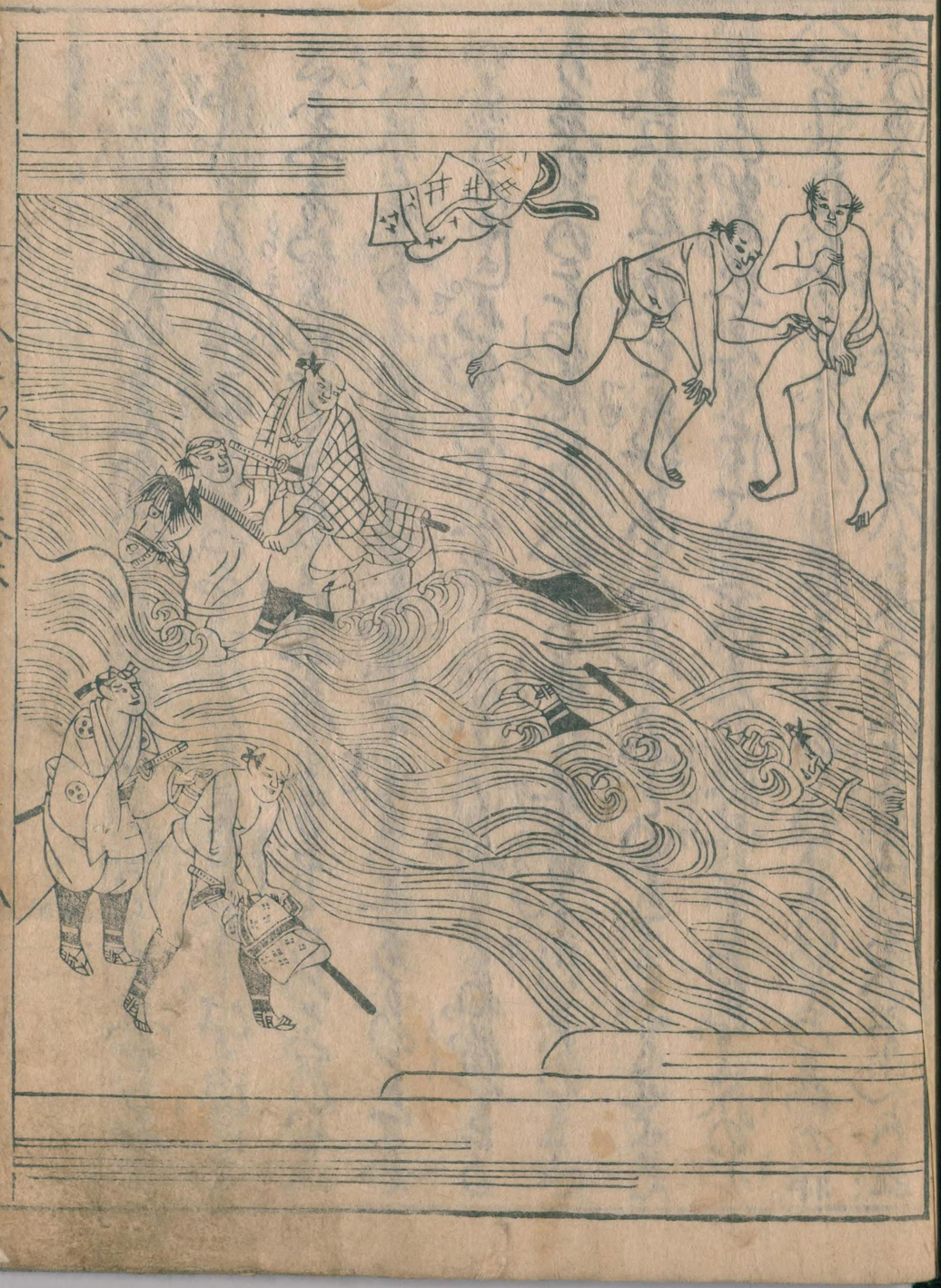
年れうち春ハ雅彼よゑかがくなの春りなまえ東方。南川乃邊ま經なまえ民務聖東西南ゑかけまわり家ま淀町なく毎日殘ゑ判儀ゑのわ湯を受。月六度れ飛鳥京大仮ゑ乃休日をうさぐ。寐るゑも十嘉盤とかさ孫ど。去子と暫こと しのふ仕合。旧冬ゑ六さるとゑよく。内洗の始末ゑ氣を付ゑ夕燒塩燒味噌よりあれさのを一ぐ。旧ゑ高賞のわらゐけまぐ。なんぞも今年ハと。ゑれ孫ぐありて約ゑ甲斐なくぞ。ゑ程のゑが卸ばりまゑ。諫ゆゑ女食を好。未挽町堀町乃立居を

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192
ガラス使用

一　最初の御ら様の御くの御ことを
書物集め御ら様を御ことを
御ことを考ことに御ことを
御ことを見ことに御ことを
御ことを御ことに御ことを
御ことを御ことに御ことを
御ことを御

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』 請求記号 京-192

ガラス使用

しなく流の者為れ様に死に耳にかどあり。糸のあらむとあらずは
おきあしの所をとるまで後迄にむくわかに魚をかに魚をとりて焼かに
て化焼三人のかのあらし。此今迄三人のまゝざると絶賛持況の御
利生取さ。様に見なるかゝれ様に付まどひ。ぬくの御信用にも浅くまで
ぞ。家出世を出る付ひて弟大が御来ぬえなりしが。わんに母がねなまの
を。親にも兄弟にかかまで何の来ぬ。ゆへ。不孝ひ不孝りぐぞと
あとをまのぬこ。ぬくの御意にもまでぞ。ひまに捨重御詞りもと
後をおがしね。ぬく驚家に大切に世ぞとちかく此後に
まあるの意をおかし。親子兄弟に義理を立代人のおかりくなまで
ぬ。日比の公成とハ知りぬ。親の名様立ちを考ひたりまで見飛ぬ
なるぞひ。ふ浪をつぞ成人の後ハ公まをとさ母ぐ。いまゝ

げに見ハあやまりぬ。ひこ人ハ世もうくも御病者にまゝ人間ぬをご見
為に世別となまぞ名称をしし。様に三社持況をこんぎりまりぬ。
門の孔家に七後。御仇結んと会法にまゝ。名称かしげに見ぬ
く。ふのまぞ。中にも主人御恍うまでも雅夜に詞り。野外美人と
見物せんと恍の和歌をあげたり。高麗やひ浦ふに恍をあげく。
りろんに出後の流れあらぐ乃偽が。まぞ。そくなるその仲をとも
後の江に若にかりく。皆く無ろわがり四社明神に知ざまりさかべ
とうひけれする付。付まどひ万まで人妙なる御教恵。ふ見かかく氣
ハ見無理三社持況の神勅。池名に信かふく。ゆなるうちをりん
じかりに無也と現じあやうき命を吻。今世にあるとふ世のうへに
ぬぐさまひぬいとぎなまに詞り一事に最盛をゆづり。老の事をさあ

元禄十六歳
未
弥生上旬

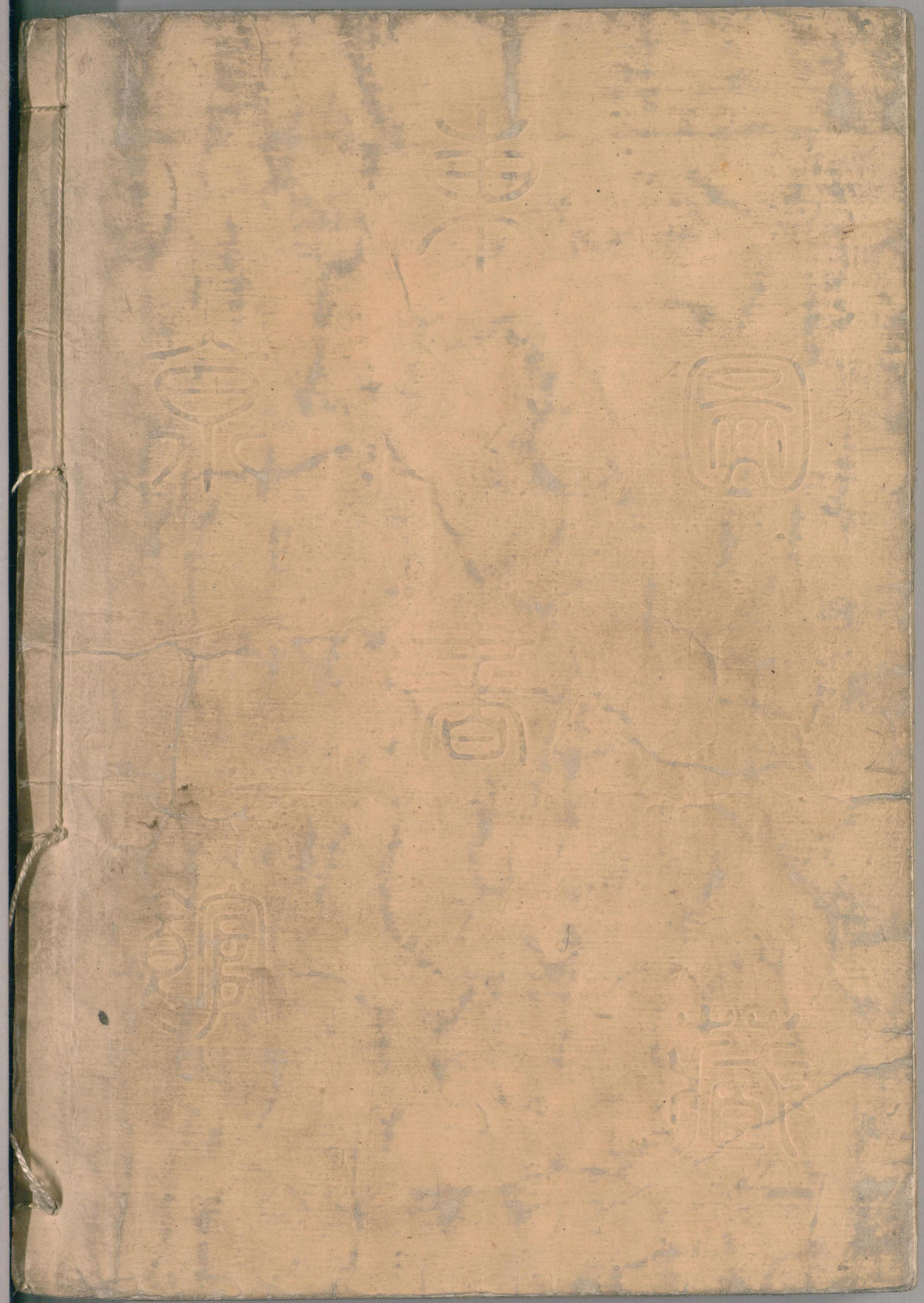
京寺町通松原上ル町
菊屋七郎兵衛新板

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号 京-192
ガラス使用

京 192

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192



国立国会図書館　　タイトル『風流今平家』　請求記号　京-192

ガラス使用